

松本藩年表

這份年表是松本藩大事記，記錄了對松本城及當地居民日常生活產生過重大影響的歷史事件。

松本藩下轄今長野縣西北部區域，由被稱為「大名」的地方領主統治。江戶時代（1603-1867），日本全國被劃分為上百個「藩」，各藩大名居住在巨大的城郭中，擔負著地方行政中樞的職責。

大名們通常只有一半的時間待在領地。當時執政的德川幕府（1603-1867）要求所有大名都在將軍居所江戶城（今東京）附近另設別邸，並定期前往，有時候一住就是一年。大名的妻子和大多數孩子也都必須長期定居江戶，充當政治人質。透過這套制度，幕府以昂貴的旅費消耗各地大名的政治和經濟實力，同時用其家人的安危來防止背叛。

	中文	日本語
1594	石川家統治時代，松本城 3 處天守建築——大天守、乾小天守、渡櫓建成。	大天守、乾小天守、渡櫓の 3 つからなる天守が、石川家の統治下で建てられる。
1613	小笠原家取代石川家入城，他們是眾多與德川家私人關係密切的松本大名領主中的第一家。	石川家が去り、代わりに小笠原家が入る。小笠原家は、徳川幕府と密接な関係を持つ最初の松本大名である。
1634	松平家増建辰巳附櫓和月見櫓。	さらに、松平家により辰巳附櫓と月見櫓の 2 棟が増築される。
1686	北部農民抗議藩政年年徵收重稅。松本藩先假意接受對方要求，之後逮捕並處死了抗議首領。	北部の農民が、藩から課される高い年貢に抗議する。松本藩は、当初彼らの要求を受け入れるふりをした後、抗議のリーダーを捕らえ、はりつけにする。
1727	大名領主的居所和政治中樞「本丸御殿」焚毀。火災並未波及天守，這被歸功於供奉在大天守 6 樓屋頂下神龕裡的「二十六夜神」。	本丸御殿（城の本丸にある大名の住居兼政庁）が焼失する。大天守の 6 階の屋根の下にある祠に祀られている二十六夜神が守ってくれたため、天守には火が燃え移らなかったという。
1776	城下町的「中町」區域發生大火。約 1200 處住宅被毀，其中包括 57 座武士宅邸。	「中町」と呼ばれる城下町の一角で大発火が発生。武家屋敷 57 棟を含む約 1,200 棟が焼失する。

1825	戸田家舉辦紀念執政百年的盛大慶典。同年，松本藩北部米價飆升，由數萬農民參加的起義爆發。	戸田家が 100 年目の節目を迎え、盛大に祝宴を開く。この年、松本市北部で米価の大幅な値上げに反対する数万人の農民の反乱が発生する。
1871	明治新政府廢藩置縣，松本藩正式成為松本縣。1876 年，與周邊數縣合併為長野縣。	明治新政府により藩制が廢止され、松本藩は正式に松本県となる。1876 年、周辺の諸県と合併し、長野県となる。